

◇「ナゼスタイル」は長岡で頑張る企業・起業家を応援するフリーペーパーです。(奇数月25日発行)

NAZE Style

Nagaoka Activation
Zone of Energy

vol.30
20120525

CONTENTS :

モノづくり企業訪問記 vol.26 = (株)ネオス / 吉井国際特許事務所

会員企業紹介 vol.11 = (株)エム・エスオフィス

平成23年度チャレンジ事業報告① = (株)アサヒプレシジョン

NAZE NEWS

デザインコラム vol.14



FREE
0円

Neo Standard Design Production
NEOS 株式会社 ネオス

〒940-0084 長岡市幸町1-3-10
パートナーズPLAZA内
TEL 0258-33-8836 FAX 0258-33-8837
U R L : http://www.neos-design.co.jp
E-mail : info@neos-design.co.jp



今回訪問させていただいたのは、長岡市幸町にあるデザインオフィスの株式会社ネオス(以下、同社)だ。

同社では、「ココロを動かすデザイン」をコンセプトに、主に中小企業のブランディング、その内容としてはロゴマーク制作や、商品パッケージのデザイン、ホームページ・WEBサイト制作、広報やセールスプロモーションなどの事業を行っている。ブランディングとは、顧客や消費者の頭と心に企業のブランドを根付かせる活動のことである。ちなみに、このNAZEスタイルの発行元である長岡産業活性化協会NAZEのロゴマークは同社が作成したものだ。

山本社長から事業内容や企業理念を聞く中で印象的だったのが「お客さま視点」という言葉だった。デザイナーは自分本位にデザインを作ってしまうがちであるが、デザインを通してどう問題を解決するか、お客さま視点を忘れないこと。これが大切であり社員にもいつも言っていることだという。

また、同社では毎月メール便でお客さまや名刺をいただいた方に、現在の自分

たちの活動を伝えるためにニュースレターも発信している。デザインの需要、期待は年々増しており、デザイン事務所側から積極的にアプローチしていくことが必要であると聞き、主体的にお客さまとコミュニケーションをとっていくことはどちらにとってもプラスになるのかもしれないと感じた。

お話を伺った後は、従業員の方が実際に働いている現場も見せていただいた。仕事現場に入った途端、目に入ったのはたくさんのパソコンと向き合うデザイナーの皆さんの姿だった。特別に仕事内容も少し見せていただいたが、チラシやWEBサイト、写真加工、3DCGなど各々で分野に分かれて仕事に取り組んでいた。10名ほどの方がそれぞれ仕事をしているが、何人ものデザイナーの方が仕事をする姿を見るのは初めてで、わくわくすると同時に将来の自分を少し重ねてみたりもした。

また、広告代理店などから仕事を受けているデザイナーが多い中、同社では8年前にそれを切り替え、営業部を設け、クライアント企業から直接仕事を受ける

ようにして、企画からの提案もできるようにしたという。広告代理店という仲介を無くすことで直にお客さまと触れ合え、お客さまに寄り添った仕事を実現できるのではないかと感じた。

最後に、「長岡でしかできないデザインはありますか？」との質問に、「地域資源とコラボレーションした商品や地域のブランドづくりに可能性がある。」と答えてくださった。そして、「市場を地域だけじゃなく全国へ、さらには国際社会を視野にいれたものにしなければならない。」ともおっしゃっていた。地域から世界へ発信していくという視野の広さは、更なる同社の発展につながる考え方であると感じた。

今回の訪問では、何よりもお客さまのことを考えたデザインを提供し、そして自社をこれからも発展、成長させていこうという想いを感じることができた。ありがとうございました。

長岡造形大学
視覚デザイン学科
3年 安達奈々絵

NAZEは現在74会員！ 企業68社・6個人

旭精機(株)
(株)アサヒプレジジョン
飛鳥運輸(株)
(株)アドテックエンジニアリング
(株)アルモ
(株)アンドウ

(株)イートラスト
(株)池田機工
越後工業(株)
エヌ・エス・エス(株)
(株)N D C
(株)エム・エスオフィス

(有)エムケイ技研
(株)オオイ
(株)大善
(株)大原鉄工所
(株)大菱計器製作所
小川コンベヤ(株)

(株)山抜型製作所
(株)カバサワ
久保誠電気興業(株)
(有)倉品鐵工
クリーン・テクノロジー(株)
クリエイトエンジニアリング(株)

(有)興和
(株)小西鍍金
(有)小林超硬研磨
(株)サカタ製作所
(株)佐藤板金
(株)システムスクエア
(株)七里商店
(株)シナダ

上越工業(株)
(株)鈴民精密工業所
(株)ソリマチ技研
(株)大光銀行
(株)第四銀行
(株)タカキ
(株)たかの
(株)タカハシ

吉井国際特許事務所

〒940-0061 長岡市城内町3-5-8
 TEL 0258-33-1069 FAX 0258-32-2508
 U R L : <http://www.yoshii-ipo.com>
 E-mail : info@yoshii-ipo.com



吉井国際特許事務所は、新潟県のかなりの数の特許出願・登録を担う特許事務所だ。昭和31年に創立し、以来40年以上、内外国出願、鑑定、調査、特許侵害訴訟など幅広く仕事を行っている特許事務所である。今回は吉井所長から特許権や意匠権について素人の私達に詳しく説明をしていただいた。

まず、新しい技術考えた時、特許庁に保護が必要か審査してもらう。特許庁に伝える代理となるのが弁理士である。文章、図面、写真を使ってその新しい技術の特許庁に伝える。審査が通ると技術の場合は特許権、デザインの場合は意匠権が与えられる。これらの権利は独占権として20年間、技術またはデザインを独占することができる。弁理士の仕事は出願の手伝いをするだけでなく、権利を取った後、模倣されたら警告文の送付、訴訟の手伝いをする。またその逆もあり、訴えられた被告側の相談を受けることもある。訴訟に負ける回数が多いと信頼が下がるので、依頼者と訴訟をするか否かよく相談して決めるそうだ。特許・意匠権は国毎に取得するものであるため、他

の国で権利を取得したい場合はその国の特許庁に出願しなければならない。国毎に審査の厳しさが違うらしく、ヨーロッパは厳しく、アメリカは緩いそうだ。

日本は新しい基礎技術へのサポートはしっかりしているが、デザインになると保護が希薄になってしまっているそうだ。確かに私の通う長岡造形大学でも、生徒達の作品は学校に展示されていて、それらの保護は特にされていないのが現状だ。私自身も来年から企業に属しデザインしていくことになるのだが、意匠権などの出願は担当の人達に任せておけば良いという考えがあった。しかし、その考え方は変えなければいけない。デザイナー自身が権利について学び、デザイナーから保護を訴えていかなければ、この現状は変わらないということを学んだ。また、権利の尊重・保護の感覚を持っている国が発展してきているそうだ。特許制度があるから皆が新しい技術を隠すことが無く、オープンにする。そうすることで、国の技術が発展することがわかった。

商品をデザインし意匠権を取得する際のポイントも教えていただいた。まず新

しい商品の意匠権を取る時は、完成した一つのものだけを出願するのではなく、デザインスケッチの段階でいくつも出願し、権利が取れたものの中から売り出すということだ。そうすることで、商品が完成してから他の商品の権利を侵害していた、ということが無くなる。また、出願する時は、周辺のデザインなども代理人の方に見せた方が、保護したいポイントが伝わりやすいということがわかった。

今回の訪問で、意匠権などの概要を知っているのがデザイナーとしての義務であり、デザイナーは商品を守る手段を知っておかなければいけないということを学んだ。いままで意匠権などの知識は少しあれば良いと思っていたが、それは間違いであり、デザイナー自身も知っておくべきであり、後で自分自身が痛い目に会うことがわかり、今回を機に権利の勉強もしようと感じた。普段聴くことができないようなことをたくさん教えていただき、大変勉強になった。ありがとうございました。

長岡造形大学

プロダクトデザイン学科

4年 熊谷 陽太

中越鋳物工業協同組合

テラノ精工(株)

(株)トーエイ

ナウエス精工(株)

(株)中津山熱処理

長岡技術科学大学

産学官・地域連携/知的財産本部

長岡工業高等専門学校

長岡造形大学

デザイン研究開発センター

長岡大学 地域研究センター

長岡電子(株)

(株)永島工機

(株)ナノテム

(株)難波製作所

(株)ネオス

(株)パートナーズプロジェクト

(株)林メッキ工業所

(株)BSNアイネット長岡支社

(株)FUCO

(株)ブラカード・ジャパン

古川機工(株)

(株)北越銀行

(株)ホクゲン経済研究所

北陽精工(株)

マコー(株)

(株)丸栄機械製作所

(株)毛利製作所

ユニオンツール(株)長岡工場

吉井国際特許事務所

長岡工業高等学校

校長 安達弘哉

バジュ・ブレーン(株)

石橋まどか

(株)北越銀行

顧問 高田孝次

(株)広井工機

代表取締役 廣井 晃

新潟工科大学

学習支援センター事務室

室長 村山健一

長岡技術科学大学

機械系教授 柳 和久

(H24.5.25現在)



おかげさまで 創業20年目を迎えました

株式会社 エム・エスオフィス

〒940-0065 長岡市坂之上町2-5-1
 代表取締役 笠原 廣
 TEL 0258-30-1230 FAX 0258-30-1231
 U R L <http://www.ms-office.co.jp>
 E-mail msinfo@ms-office.co.jp

社員と企業を繋ぐ創造企業

～仕組みづくりと人づくりの総合支援企業を目指して～

当社は、1992年に長岡市で創業し、今年で20周年を迎える経営コンサルティング会社です。組織の存続・発展を支えるのはマネジメントシステムであり、その両輪は“システム／仕組み”と“人の育成”であると考えています。企業のマネジメントシステムを永続的に回転させるべく、総合的なご支援をさせて頂いております。

企業の問題・課題に応じた“仕組みづくり”

～マネジメントシステムの構築・運用支援～

“仕組みづくり(マネジメントシステム)”では、1994年に品質(ISO9001)の認証取得支援事業を開始し、環境(ISO14001)・労働安全衛生(OHSAS18001)・情報セキュリティ(ISO/IEC27001)・食品安全(ISO22000)など今日まで認証取得支援や改善支援など数多くの企業様とのお縁を結ばせて頂きました。

企業が求める“人づくり”

～目的・階層別社員研修の企画・実施～

一方、どんなに優れた“仕組み”があっても、運用するのは“人”です。“人の育成”の面では、組織が抱える問題・課題を解決できる人材の育成を目指し、社員一人一人が自ら考え、意見具申し、実践出来るような企業内社員研修の企画・実施に取り組んでおります。一例として『品質管理(QC)研修』『5S研修』をはじめ、受講者自身や部下のやる気を生み出す力を養う『リーダーシップ研修』、周囲を説得させる力・伝える力を養う論理的思考法の『ロジカルシンキング研修』など、新入社員・中堅社員・管理者を対象とした研修を目的別・階層別に行っております。特に、研修を一過性で終わらせないためにも、研修受講後、自分の意識や言動がどのように変わったかを振り返り、日常業務においてフォローする事が大切だと考えております。



～求職者の職業訓練、再就職支援セミナーの受託～

また、最近の新たな取り組みでは、『新潟県立新潟テクニカール・三条テクニカール・魚沼テクニカールの職業訓練』、『新潟労働局の再就職支援セミナー』を受託し、再就職を希望する人の支援も行っています。職業訓練では、「ビジネス文書の作成」「データ活用スキル」「プレゼンテーションスキル」などPCスキルを身につけるだけではなく、社会人としての『挨拶』『報・連・相』や『時間を守る』などの基本的な規律・心得を訓練に取り入れ、企業が採用したくなる人材の育成に取り組んでおります。

このような取り組みの成果として、入校当時は人前で話が出来なかった訓練生が、訓練期間終了後(3ヶ月又は6ヶ月)、自分の目標や自分の『強み(アピールポイント)』を見出し、人前で堂々と発表・意見できるようになり、就職後も活躍されております。

～企業が求める人材の育成から紹介へ(マッチング)～

最後になりましたが、当社は2010年9月に厚生労働省より「有料職業紹介事業許可」の認可を受けました。これにより、人材の育成の取り組みにプラスして、企業様の人材ニーズにあった求職者を紹介することが可能となりました。

PCスキルや仕事への取り組み意欲の高い人材の育成を図り、より多くの優れた人材を企業様へご紹介できるよう、引き続き取り組んでまいります。

企業様の存続・発展に向けて、人材の育成・紹介という面でも皆様のお役に立ちたいと考えておりますので、ぜひお気軽にお問い合わせください。

企業の命題 『存続・発展』

企業の存続と発展に必要不可欠な“人”と“システム/仕組み”は、言わば車の前輪と後輪のようなものです。私たちは、タイヤの選定・取り付けから維持管理の役割を担い、皆様のお役に立ちたいと考えております。

**システム
仕組みづくり**

【マネジメントシステム構築、改善支援】

- ・品質(ISO9001)
- ・環境(ISO14001)
- ・労働安全衛生(OHSAS18001)
- ・情報セキュリティ(ISO/IEC27001)
- ・食品安全(ISO22000) 等

人づくり

【在職者対象 研修】

- ・品質管理(QC)
- ・5S
- ・リーダーシップ
- ・ロジカルシンキング
- ・OJT 実践
- ・現業力向上
- ・リスクアセスメント 等

【求職者対象 訓練】
(有料職業紹介)

- ・パソコン(Excel/Word等)
- ・生活態度
- ・時間を守る
- ・コミュニケーション 等

**仕事への
取り組み姿勢**

企業の存続・発展
= 社員の成長



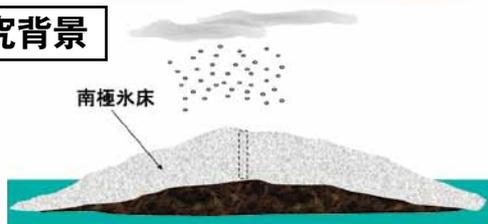
平成23年度のチャレンジ事業は、会員企業2社が長岡技術科学大学の協力を得て自社の有するテーマについての研究開発に取り組んだ。今号から2回にわたりその成果を紹介する。

第1回は(株)アサヒプレジジョンと長岡技術科学大学東研究室が取り組んだ氷床コア解析に関する研究成果について報告する。

氷床コア解析用連続融解装置の設計製作

株式会社 アサヒプレジジョン 堀井 英夫 <http://asahi-precision.co.jp> 長岡技術科学大学 機械系 教授 東 信彦 <http://www.nagaokaut.ac.jp>

1. 研究背景

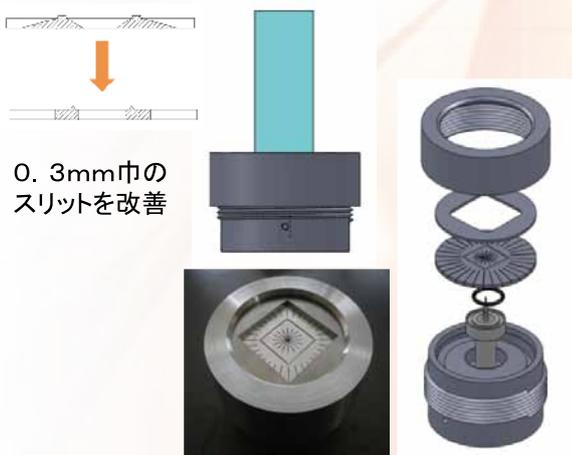


地球の環境変動の情報を得るために、極地で掘削された氷試料(氷床コア)の分析が国際的にも重要な研究課題となっており、各国の多くの研究機関でその分析が行われている。1mmの空間分解能で連続的に迅速に化学分析を行うための連続融解装置が必要です。

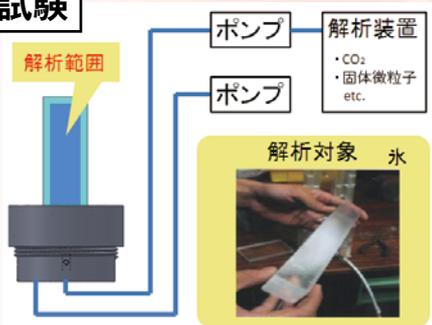
2. 目的

連続的に迅速に化学分析を行うための高性能な連続融解装置の融解部分を設計し試作する。性能評価は長岡技術科学大学と国立極地研究所が行う。

3. 製作装置



4. 氷融解試験



5. 雪溶融試験

解析対象の追加



氷

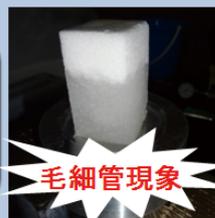
追加



フィルン

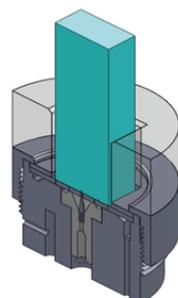
フィルンの特徴

- ・氷床の表層部
- ・多孔質の組織を形成



融けた水分が毛細現象で上に浸みこむ状態を回避するため防止カバーを追加。

毛細管現象対策

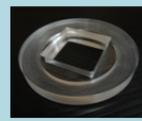


毛細管現象防止カバー

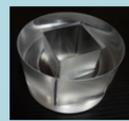
予想

防止カバーの厚みの検討

↓
空気が融解液を引き込む
毛細管現象を抑える？



高さ10mm

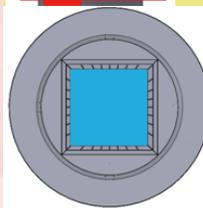


高さ50mm

6. 今後の課題

真空ポンプに変更

・定量ポンプのみでは毛細管現象を防ぐことは不可能



解析装置

今後の方針

- 外側のポンプを真空ポンプにする
- プレートの改良
- ・多孔質のセラミックスの検討
- ・試料と接する部分のみスリットを入れる

古川機工(株)日本機械学会優秀製品賞を受賞

一般社団法人日本機械学会では、既存技術の工夫や改良、草の根的な技術開発などによって生み出された優れた中堅・中小企業の製品を日本機械学会優秀製品賞として表彰しています。この度「NAZE豪技2011」に認定された古川機工(株)の「スイットル」が全国で5件の同賞に選ばれました。

4月20日に東京の明治記念館で行われた受賞式では、同社の古川寛康代表取締役が賞状とトロフィーが贈られました。



豪技Webサイトトップページをリニューアルしました。

本年度で第2回目となる「NAZE豪技2012」を認定・発表したことに伴って、NAZE豪技Webサイトのトップページを更新しました。今回、新たに追加されたのは、(株)片山抜型製作所の「エコ・メタルダイ」と(有)毛利製作所の「毛利レリーフ」!

今後は、NAZE豪技2011から2012全4社分の技術や製品の動画を作成し掲載することを予定しています。

NAZEでは、長岡の「凄い・もの凄い」技術をもっともっと「見てもらう」「知ってもらう」ことを目指して、これからもWebサイトの向上に努めていきます。

豪技webサイトはこちら→ <http://gougi.naze.biz/>



デザインコラム vol.14

NAZE ID コーディネーター
松丸 武

「ちょうどいい」の追求・・・デザイン・オリエンティドのモノづくりへ!

「ちょうどいい」、モノのデザインの第一目標は、人にこれを求めることである。全ての人工物（建築もさまざまモノも）は、人間が、あったらいいな、欲しいな、必要なと思う欲求があるから造られる。自然界（地球上）で人間だけが持つ創造する力が次々とモノを進展させ続けている。そこに求められるのは「ちょうどいい」である。

「住宅は住むための機械である」と言ったのは、ご存じの建築家ル・コルビュジエであるが、「住む人間が快適に暮らし続けるためにはどのような空間・機能が良いか」と、それまでの建築に新たな考えを打ち出した。人間が毎日住み、暮らしていく生活中心の住宅を考えることが住宅建築の最重要テーマだ、そして、人間中心設計の考え方としてモジュロール（右図が一例）等の理論を打ち立てた。

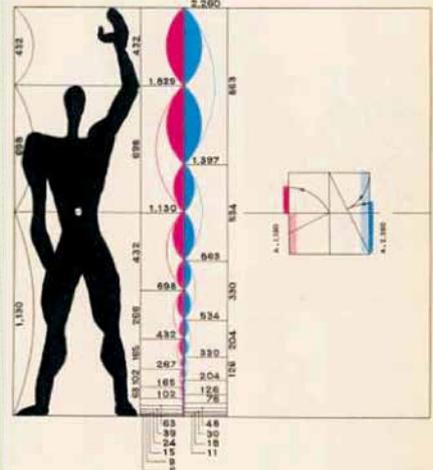
ところで今日、大量生産・消費社会に産み出される膨大なモノ開発の背景を観るに、「モノを買い、使う人間のことを十分に考えている」と言えるだろうか。ここでもう一度考えてみる必要があるのではないだろうか。

「ユーザーオリエンティド」、「顧客満足」、「インターフェイスデザイン」等々とモノの開発・デザインの考え方は確かに大きく拡がり、企業は相当の力を注いでいる実情は解かる。しかしここにきて、まだまだ考える余地・要素があるように思うのだが・・・。ことにデザインの考え方において。

かつてある企業で実行し成功してきたように、企画段階の一步目にデザイン部門が描いたモノの姿（全体像：サイズ・外観・テイスト等）を机上に置き、議論することから始めることもその一方法であると思う。

今の韓国の強さの源は、それを今流に実行していることにあるようだ。欧米地域の企業にもその戦略は多くみられる。そこに「ちょうどいい」というデザインの本質が現れるのだろう。

日本のデザインも、もっと広い視野でその立場、考え方の必要性を強く自覚し、一層「ちょうどいい」のデザイン力をつけなければ・・・。（具体的なことは次号で。）



ル・コルビュジエのモジュロール身体

長岡で頑張る企業、起業家を応援します!

NAZE

くわしくは →

<http://www.naze.biz/>

Nagaoka Activation Zone of Energy
NPO 法人 長岡産業活性化協会 NAZE

●記事内容についての感想をお待ちしています!

〒940-2127 新潟県長岡市新産4丁目1番地9 NICO テクノプラザ内 NAZE 事務局
TEL : 0258-42-8700 FAX : 0258-42-8701 E-mail : info@naze.biz